韓國日本語學會ニュースレター

[2023-Ⅰ]

発行人： 盧姓鉉 / 編集人： 張良光 / 発行所： 韓国日本語學会 / 発行日： 2023.2.28.

ご挨拶	Ⅰ
役員名簿	2
常任理事会	7
会員情報	8
学術大会開催案内	9
連携協力研究会活動報告	Ⅱ
編集委員会	18
『日本語學研究』論文投稿案内	21
「３６５ One Stop 論文投稿システム」	27
学会ホームページ案内	28

事務局 〒01369 Seoul 特別市 道峰區 三陽路 144gil 33 徳成女子大學校 人文社会館 424 号
盧姓鉉教授研究室

http://www.jlak.or.kr
(研究編集事務局長：李炤羅) 010-8901-2603
(学術事業企劃事務局長：扈圭珍) 010-3464-1660
(教育広報事務局長：伊藤貴雄) 010-2656-2098

한국일본어학회 韓國日本語學會
The Japanese Language Association of Korea

ご挨拶

尊敬する韓国日本語学会会員の皆様、

韓国日本語学会第 12 代研究副会長を務めている高麗大学校の蔡盛植です。

終わりが見えなかったコロナ禍がいよいよ収束に向かっているようです。「収束に向かっているようだ」という曖昧な表現を使ったのは、感染者が持続的に発生しており、まだ場合によっては室内ではマスクを着用しなければならないなどの制約にもかかわらず、私たちの日常がコロナ禍以前とあまり変わらず続いているからです。

年数にして 4 年にわたるコロナ禍は学会の運営形態にも少なからぬ影響を及ぼしました。 新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった時は、人々が集まること自体がタブー視され、そのため学会運営と関連した各種会議はもちろん、学術大会さえもほとんどオンラインで進められるしかありませんでした。学術大会とは、自分の研究成果を披露する場であり、研究者間の親睦を図る場にならなければならないにもかかわらず、非対面オンライン学術大会は、この二兎を追うには力不足でした。

しかし、会長をはじめとする会員の皆様の献身的な努力とたゆまぬ協力のおかげで、この 3 年間は単なる空白の時間ではなく、学会の発展的未来に備えた新しい基礎を固める時間であったと思います。「危機を機会に」という言葉のように、コロナ禍のなか、オンライン中心の学会運営を通じて得た知識と経験を従来のオフライン中心の学会運営に融合させれば、学会の底辺拡大と内実化、ひいては私たちの念願だった学会のグローバル化までも容易に成し遂げることができるでしょう。

最後に皆が困難だった時期にも韓国日本語学会が、名実共に国内第一の日本語学専門学会として相変わらず位置づけられるようご支援、ご協力くださった会員の皆様に感謝のご挨拶を申し上げ、今後とも惜しみないご関心とご参加を賜りますようお願いし、私のご挨拶の言葉に代えさせていただきたいと思います。

韓国日本語学会研究副会長 蔡盛植

役員名簿

■常任理事

役職		氏名	所属
會長		盧姓鉉	德成女子大學校
副會長	研究	蔡盛植	高麗大學校
	編輯	李恩美	明知大學校
	學術	郭銀心	中央大學校
	事業企劃	李埈瑞	聖潔大學校
	教育弘報	角ゆりか	明知大學校
總務理事	研究編輯	鄭賢児	西京大學校
	學術事業企劃	辛銀眞	仁川大學校
	教育弘報	中村有里	仁川大學校
財務理事		殷守希	淑明女子大學校
評價理事		梁乃允	中央大學校
學術理事		金義泳	ハンバッ大學校
		張允娥	延世大學校
		趙恩英	釜山外國語大學校
		白以然	高麗大學校
編輯理事		國生和美	東國大學校
		申媛善	建國大學校
		崔惠貞	カトリック大學校
		全紫蓮	慶尚國立大學校
		金惠娟	聖潔大學校
出版理事		李粹昺	嘉泉大學校
情報理事		李相怡	仁川大學校
弘報理事		張良光	カトリック大學校
國際交流理事	日本	金廷珉	亜細亜大学
		朴秀娟	神戸大学
		尹智鉉	中央大学
		鄭惠先	北海道大学

	中國	朴孝庚	漢陽サイバー大學校
		全永男	延邊大學
		母育新	西安外國語大學
		盛文忠	上海外國語大學
	臺灣	羅曉勤	銘傳大學
	オーストラリア	Lee,Duck-Young	The Australian National Univ.
対外協力理事	ソウル	文彰鶴	韓國外國語大學校
	京畿	方允炯	水原大學校
	江原	高慧禎	カトリック關東大學校
	忠北	李忠奎	西原大學校
	忠南	金玄珠	ハンバッ大學校
	慶北	李慈鎬	慶北大學校
	慶南	河在必	釜山大學校
	全南	林禔映	全南大學校
	濟州	孫栄奭	濟州大學校
	日本	金照雄	時事日本語社
事業企劃理事		李舜炯	慶北大學校
		李承珉	啓明大學校
事務局長	研究編輯	李炤羅	建國大學校
	學術事業企劃	扈圭珍	德成女子大學校
	教育弘報	伊藤貴雄	弘益大學校

■**一般理事**（国内：가나다順，海外：五十音順）

国内		
検校裕朗(極東大)	具明會(韓國外大)	権城(木浦大)
金善姫(水原大)	金英敏(同德女大)	金曛泳(同德女大)
金鍾完(江原大)	長島倫子(建國大)	野田高広(啓明大)
沼田浩通(南ソウル大)	高橋美保(韓國外大)	持田祐美子 (Lapu-Lapu Cebu International College)
朴江訓(仁荷大)	朴京愛(建國大)	朴良順(蔚山科技大)
齊藤明美(翰林大)	成知炫(韓國放送通信大)	孫範基(サイバー韓國外大)
宋殷美(白石藝大)	申義植(韓國外大)	相澤由佳(聖潔大)
安志英(釜慶大)	梁敏鎬(啓明大)	尹楨勛(釜山外大)
李京哲(東國大)	李羽済(白石藝大)	李賢珍(祥明大)
鄭相美(新羅大)	趙宣映(仁川大)	崔延朱(慶尚國立大)

海外		
新井保裕(文京学院大)	石塚ゆかり(青森大)	市島佑起子(鹿児島大)
今村圭介(東京海洋大)	任炫樹(帝塚山学院大)	大塚薫(高知大)
生越直樹(東京大)	呉泰均(北海道大)	呉恵卿(国際基督教大)
河崎啓剛(東京大)	金愛蘭(日本大)	金庚芬(明星大)
金菊熙(松山大)	金智賢(宮崎大)	金蘭美(横浜国立大)
齊藤良子(国士舘大)	朱炫姝(目白大)	高木丈也(慶應義塾大)
辻野裕紀(九州大)	寺尾智史(一橋大)	永原歩(東京女子大)
名嶋義直(琉球大)	早矢仕智子(宮城学院女子大)	松永稔也(宮崎大)
幸松英恵(東京外大)	尹盛熙(関西学院大)	吉田さち(跡見学園女子大)
李讀珍(東京都立大)		

■編集委員会

職責	氏名	所属
編集委員長	姜錫祐	カトリック大學校
編集理事	國生和美	東國大學校
	金惠娟	聖潔大學校
	申媛善	建國大學校
	全紫蓮	慶尚國立大學校
	崔惠貞	カトリック大學校

音声学 音韻論	閔光準(建國大) 宇都木昭(名古屋大学/日本) 李連珠(北海道大学/日本) 李承英(光云大) 孫範基(サイバー韓國外國語大) *高慧禎(カトリック關東大)	語用論 社会言語学	琴鍾愛(忠南大) 金庚芬(明星大学/日本) 鄭惠先(北海道大学/日本) 吉田さち(跡見学園女子大学/日本) 李恩美(明知大) *梁敏鎬(釜慶大)
統辞論 形態論	裵銀貞(釜山外國語大) 金廷珉(亜細亜大学/日本) 竹沢幸一(筑波大学/日本) 李德泳(The Australian National Univ./濠洲) *朴江訓(仁荷大)	日本語教育	石井恵理子(東京女子大学/日本) 落合由治(淡江大學/臺灣) 曺英南(高麗大) 辛銀眞(仁川大) 李奎台(東京外大/日本) 角ゆりか(明知大) *金義泳(ハンバッ大)
意味論 語彙論	姜炅完(大邱カトリック大) 金愛蘭(日本大学/日本) 金愛蘭(慶北大) 塩田雄大(NHK 放送文化研究所/日本) 孫栄奭(濟州大) 宋永彬(梨花女子大)	日本語史	吳美寧(崇實大) 羅工洙(嶺南大) 林禔映(全南大) 朴善玉(大眞大) *朴孝庚(漢陽サイバー大)
その他 日本語学	検校裕朗(極東大) 中村有里(仁川大) 李朱利愛(梨花女子大) 盛文忠(上海外國語大學/中國) 李忠奎(西原大) 李東哲(山東省外事職業大学/中國) 全永男(延邊大學/中國) *李舜炯(慶北大)	◆ 「*」は、実務担当編集委員（実務委員） そのほかは審査担当編集委員（査読委員）である	

■監事

成玑妵(祥明大學校)

李善姬(ソウル女子大學校)

■研究倫理委員会

委員長	非公開
委員	非公開

■学術研究発展委員会

委員長	吳玹定(建國大)
委員	辛銀眞 (仁川大)、朴京愛(建國大)、崔惠貞(カトリック大)、 金義泳(ハンバッ大)

■学術誌発展委員会

委員長	李恩美 (明知大)
委員	高慧禎(カトリック関東大)、姜錫祐(カトリック大)、文彰鶴(韓國外大)、 鄭相美(新羅大)、梁敏鎬 (釜慶大)

■日本語教育発展委員会

委員長	角ゆりか(明知大)
委員	金志宣(梨花女子大)、中村有里(仁川大)、川口慶子(崇實大)、小島堅嗣(培材大) 持田祐美子(Lapu-Lapu Cebu International College)、迫田亜希子(明知大)、

■学術賞選定委員会

委員長	洪珉杓 (啓明大)
委員	姜錫祐 (カトリック大)、朴海煥 (淑明女子大)、李恩美 (明知大)、 曺英南 (高麗大)

■学会発展基金委員会

委員長	李埈瑞(聖潔大)
委員	高慧禎 (カトリック関東大)、金惠娟(聖潔大)、 南得鉉(明知專門大)、 検校裕朗(極東大)

■諮問委員会

監事	黃永熙 (漢陽サイバー大)
委員	姜錫祐(カトリック大)、康仁善 (聖公會大)、金玉任(誠信女子大)、 盧明姬(東國大)、閔光準 (建國大)、 朴海煥 (淑明女子大)、 李暻洙 (韓國放送通信大)、李範錫 (カトリック大)、李漢燮 (高麗大)、 尹幸舜 (ハンバッ大)、鄭相哲 (韓国外國語大)、 洪珉杓 (啓明大)

常任理事会

■ 第六次　常任理事会

(2022 年 9 月 16 日(金) 14:00、ZOOM オンライン会議)

1．会長挨拶

2. 関連報告

- （日本）東アジア日本研究学会　国際学術大会参加報告
  次回、本学会と共同開催
- 要旨集の出版社変更についての確認
- 閔光準教授　功労賞授与
- 基調講演　動画配信について

3. 特別案件：第４６回国際学術大会の準備

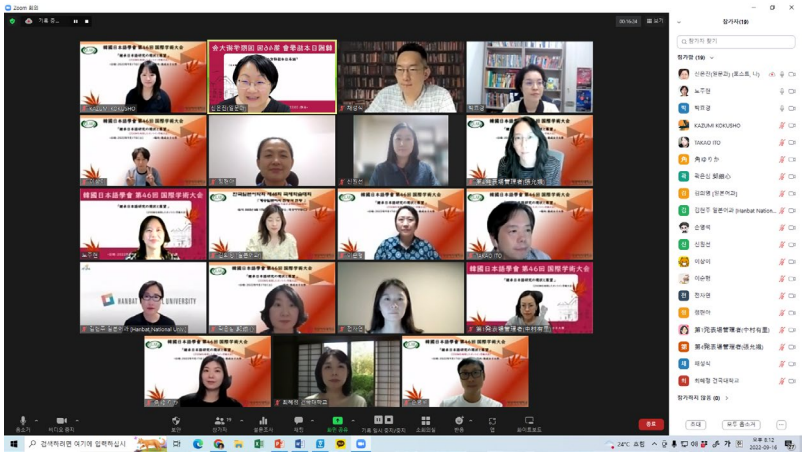
- 管理者（ホスト）リハーサル
- プログラム確認及び担当者確認
- 大会当日注意事項

4. 全体議論

- オンライン学術大会の録画データの保管について

5. その他

6. 閉会の挨拶



会員情報

○ 任用及び、転任

・姜盛文 会員
　高麗大學校 4 段階 BK21 中日語文学教育研究団 研究教授

○ 事務局

〒01369
Seoul 特別市 道峰區 三陽路 144gil 33 徳成女子大學校 人文社会館 424 号
盧姓鉉教授研究室

http://www.jlak.or.kr

(研究編集事務局長：李炤羅) 010-8901-2603
(学術事業企劃事務局長：扈圭珍) 010-3464-1660
(教育広報事務局長：伊藤貴雄) 010-2656-2098

jlak123@hanmail.net

● 審査料及び掲載料の納付先
국민은행(kookmin Bank)　014301-00-002268
은수희(한국일본어학회) **殷守希（韓国日本語学会）**

・ 個人会員の場合は学会運営の関係上、郵送料をいただいております。学会誌の発送をご希望の方は事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。学会誌に掲載された論文は創刊号から最新号まで学会ホームページの学会誌よりダウンロードできますのでご利用ください。

韓國日本語學會
第47回 國際學術大會

< 主 題 >

言語コミュニケーションの日韓対照研究

< 招請講演 >

言語コミュニケーションの韓日対照研究

沖裕子（信州大）

・日時 ：2023年 3 月 25日(土)
・場所 ：徳成女子大學校　人文社会館 101号
　　(ZOOMを利用したハイブリッド型学術大会)
・主催 ：韓國日本語學會, 日韓コミュニケーション研究会
・主管 ：韓國日本語學會
・後援 ：JAPAN FOUNDATION SEOUL , (株)時事Books

韓 國 日 本 語 學 會
The Japanese Language Association of Korea

韓 國 日 本 語 學 會

第47回 國際學術大會

▣ 日時 : 2023年 3月 25日(土)
▣ 場所 : 德成女子大學校　人文社会館 101号
(ZOOMを利用したハイブリッド型学術大会)

<Program>

13:00-13:20	▪ **開會式・総會** ＜司會:辛銀眞（仁川大）＞ 開會辭：盧姓鉉（韓国德成女子大 / 韓國日本語學會 會長） 祝　辭：加藤剛（日本国際交流基金Seoul文化Center 所長） 金志宣（梨花女子大 / 韓國日語教育學會 會長） 功労杯授與
13:20-14:30	▪ **招請講演** ＜司會: 郭銀心（中央大）＞ 言語コミュニケーションの韓日対照研究 沖裕子（信州大） 討論 1 ：黃永熙（漢陽Cyber大） 討論 2 ：李恩美（明知大）
14:30-14:40	▪ **研究倫理講演** ＜司會: 辛銀眞(仁川大)＞ 蔡盛植(高麗大)
14:40-15:00	**休息**
15:00-15:40	▪ **企劃發表1** ＜司會: 梁乃允（中央大）＞ 日本語の「察し」に対して韓国人日本語学習者が抱く印象 -勧誘に対する断り場面から- 松樹亮子（慶南大）/ 渋谷雅円（立命館アジア太平洋大） 討論 1 ：小松奈々（高麗大） 討論 2 ：早矢仕智子（宮城学院女子大）
15:40-16:20	▪ **企劃發表2** ＜司會: 李粹昺（嘉泉大）＞ 「ねぎらい」行動の日韓比較 持田祐美子(Lapu-Lapu Cebu International College) 討論 1 ：沼田浩通（南ソウル大） 討論 2 ：長島倫子（建國大）
16:20-17:00	▪ **企劃發表3** ＜司會: 鄭賢児（西京大）＞ 初対面自由会話における話題展開分析 -在日コリアンの資料を中心に- 張良光（Catholic大） 討論 1 ：張允娥（延世大） 討論 2 ：大黒恵美（国際交流基金バンコク日本文化センター）
17:00-	▪ **閉會式** ＜司會: 國生和美（東國大）＞ 閉会辞：盧姓鉉（韓国德成女子大 / 韓國日本語學會 會長）

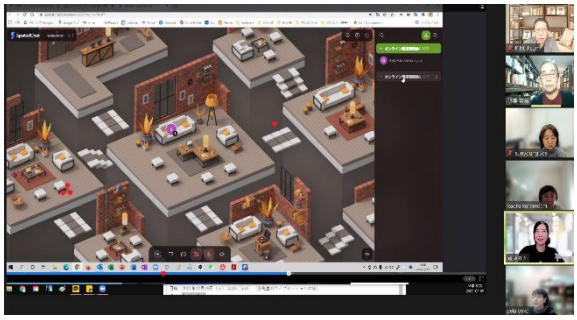
連携協力研究会活動報告

🕮 韓国協働実践研究会 🕮

韓国協働実践研究会 2022年度 活動報告

韓国協働実践研究会は、2010年に日本協働実践研究会の各国プラットフォームの一つとして立ち上げられました。本研究会では、韓国の日本語教育において協働の考え方に基づく授業実践・研究を進めていくことを目指し、1、2ヶ月ごとの定例会でそれぞれの授業実践を報告し、コメントし合う活動を行ってきました。
今回は、2022年度の主な活動について報告いたします。

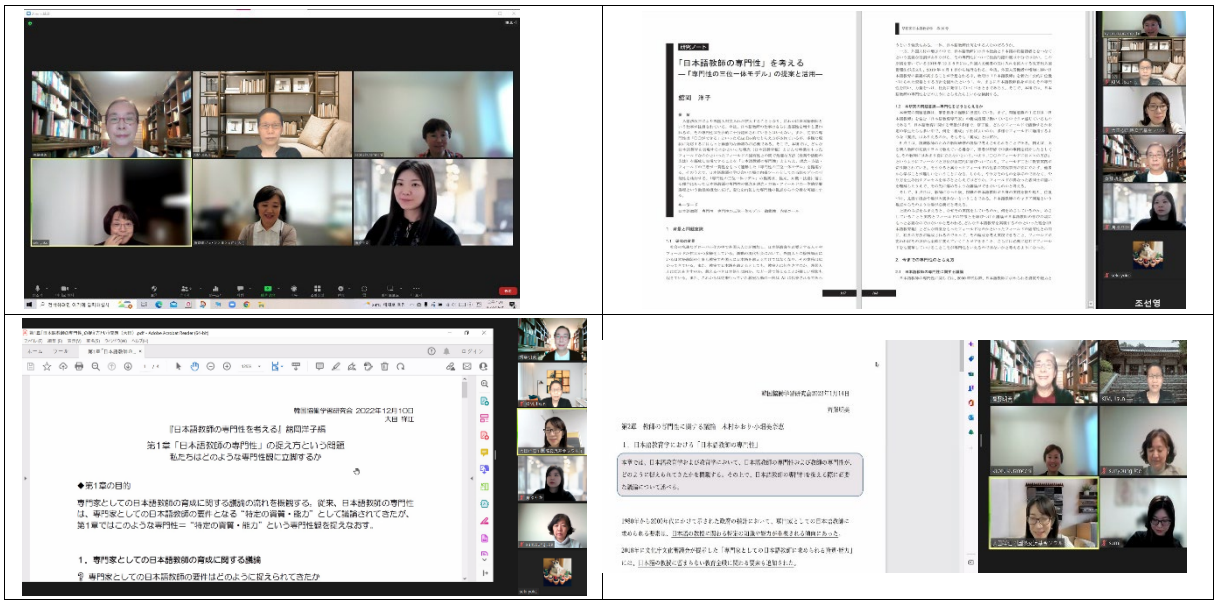
• 定例会
本年度の第1～3回定例会(1/25, 2/9, 3/23)は、「オンライン・ツール」をテーマに、ZOOMで開催しました。まず、日本語授業に生かせるオンライン・ツールの紹介や使い方の説明、試演などが行われました。また、各自の授業で使っているツールやアプリを取り上げ、活用方法や効果、留意点について共有し、コメントや感想を述べました。



第4～7回定例会(10/1, 11/12, 12/10, 1/14)では、本研究会の今後の進め方について話し合い、当分の間は勉強会の形で進めることにしました。舘岡洋子編(2016)『日本語教師の専門性を考える』を用い、担当者を決めて要約・発表してもらい、感想や意見などを出し合いました。次回(3/4)からは、第3部提案編に入り、より具体的で活発な議論が展開されることを期待しています。

第1部　問題提起編　第1章 「日本語教師の専門性」の捉え方という問題（12/10、大田祥江）

第2章 教師の専門性に関する議論（1/14、齊藤明美）



• 出版のお知らせ

池田玲子・舘岡洋子・近藤彩・金孝卿／協働実践研究会＜編著＞(2022)『協働が拓く多様な実践』ココ出版

日本国内と海外の日本語教育現場で行われている協働学習の実践事例を多数収録した書籍。ピア学習や協働学習の実現に向けた教師養成など、多様な教育現場における「学び合いの場」のデザイン例を挙げている。「学び合いの場」をデザインするためのヒントとアイディアが満載。オンラインを利用した実践も複数含まれており、コロナ禍以降の協働学習のあり方についても視野に入れている。

-出版社の紹介文より-

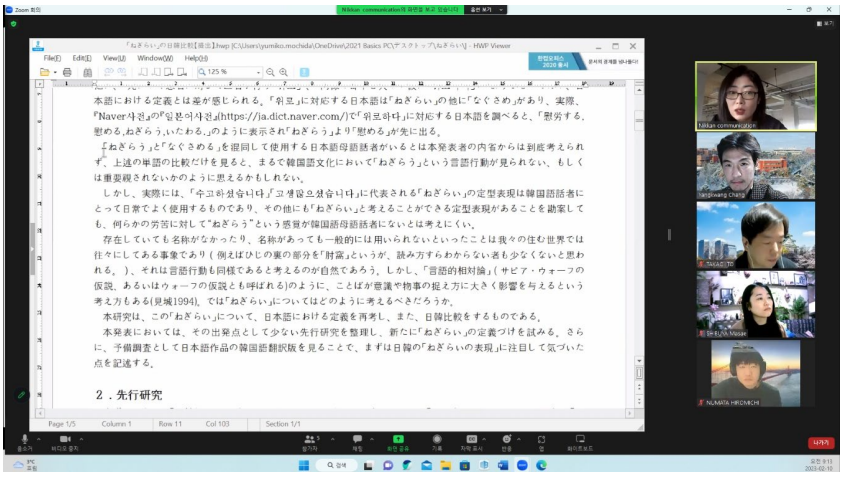
＊ 協働学習実践の教育・研究に興味のある方は、以下の日本協働実践研究会のホームページをご参照ください。
日本協働実践研究会HP http://kyodo-jissen-kenkyukai.com/

📖 日韓コミュニケーション研究会 📖

私ども日韓コミュニケーション研究会は、2013年５月に「在韓待遇コミュニケーション勉強会」として発足し、翌年の10月には学術研究活動に重きを置くべく「在韓待遇コミュニケーション研究会」に、そして同年11月には、待遇コミュニケーションだけでなく広く日韓のコミュニケーション全般に関わる研究に取り組んでいく趣旨のもと「日韓コ

ミュニケーション研究会」へと名称変更をし、今日に至ります。

2023年2月現在、会員は5名在籍しており、韓国在住会員3名、日本在住会員１名、フィリピン在住会員1名となっています。個人での研究活動だけでなく、共同研究にも取り組んでおり、次の学会での発表を目指し、準備をしています。研究は、各グループで進めるだけでなく、定期的に実施される全体会で、今後の研究の構想を相談したり、進捗状況の報告や情報交換、また会員による学術発表などを行い、お互いに切磋琢磨しながら研究を進めています。



＜全体会の風景＞

本研究会は、日本在住の会員だけでなく、フィリピン在住の会員もいるため、オンライン上での会議や発表も頻繁に行っています。そのため、一か所だけでの研究ではなく幅広いフィールドで研究活動ができ、データ集めや資料集めの際には皆積極的に協力してくれます。

こうした活動によって、韓国内外の学会において会員による口頭発表や学術誌への論文掲載のほか、書籍の出版等様々な形で成果をあげています。詳しくはホームページの「研究成果」をご覧ください。

(http://nikkancommu.officialblog.jp/archives/cat_399192.html)

今後も韓国日本語学会主催の学術行事に積極的に参加し、韓国における日本語関連の研究および教育の発展に力を尽くしていきたいと思います。

📖 韓国OPI研究会 📖

韓国 OPI 研究会 2022 年度・下半期　活動報告

韓国 OPI 研究会では、OPI(Oral Proficiency Interview： 全米外国語教育協会(ACTFL)が開発した口頭能力を測るためのインタビュー方式のテスト) に関する知識やインタビュー方法などを知り、教育や研究に活かすことを目的とした活動を続けています。

今年実施した活動は大きく次の 3 つです。1)定例会、2)スタディ、そして 3)OPI テスター養成のためのワークショップ。今回はこの 2022 年度・下半期の研究会の 3 つの活動について報告いたします。

◆定例会

本年度の下半期における第 3 回定例会(10 月 1 日)は、3 年ぶりである対面(ソウル崇実大学)とオンライン(ZOOM)の両方で行われました。LIVE で OPI のデモ(デモンストレーション)と、集録された OPI 音声を聞いて、それぞれ 3 つのグループに分かれてレベル判定の話し合いを行いました。デモと集録音声のテスターはいずれも今年のワークショップ(後述)の受講生であり、2 人にとってはじめての OPI 披露の機会となりました。

また第 4 回定例会(12 月 10 日)でも対面(テグのスタディカフェ)とオンラインで行われました。第 4 回では LIVE で 2 件のデモを行いました。この回でも OPI テスターはワークショップ受講者の 2 人でしたが、非常にスムーズな流れで OPI ができていました。デモ後の話し合いの中でもインタビューでよかった点と今後の課題が提出され、参加者全員にとって OPI インタビューの方法を確認するよい機会となりました。

◆スタディ

2020 年春から始まった、OPI に関するスタディ(ZOOM)も 3 年目に入りました(スタディの様子は 2 ページ目の写真をご参照ください)。今年は実際の OPI インタビューを参加者同士で練習したり、インタビューをする際の課題を話し合うことに多くの時間を割きました。

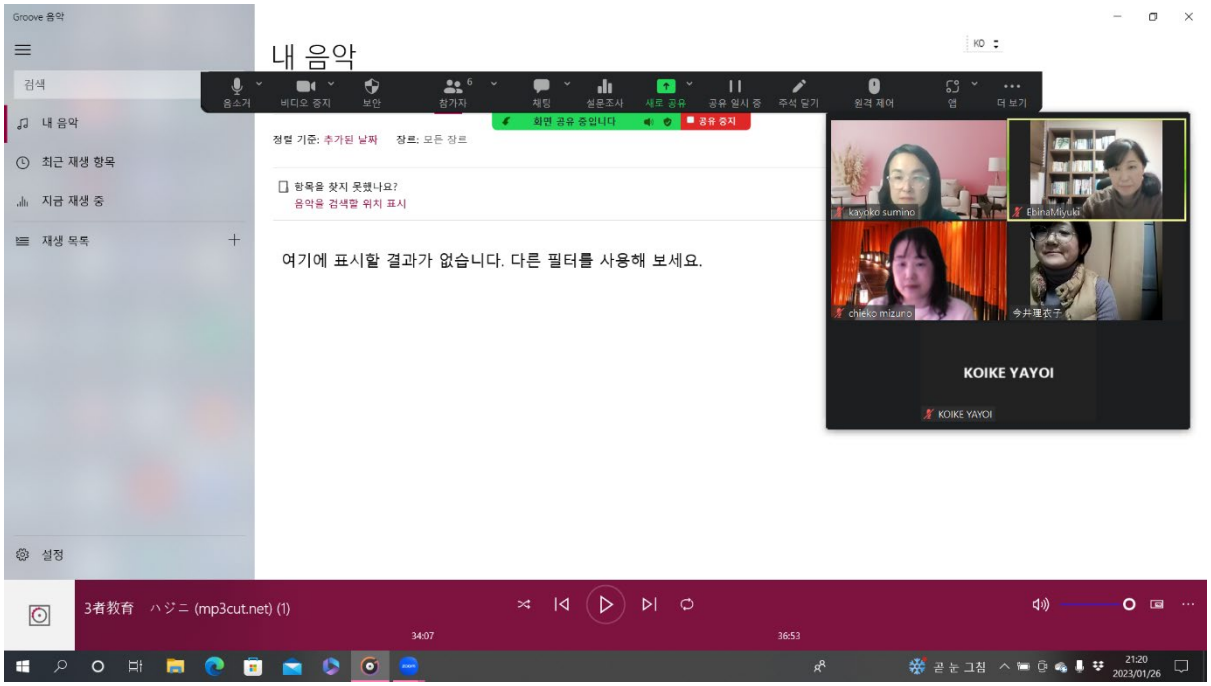
特に最近のスタディではテスター資格を目指すメンバーを中心に、自分たちが実際に収録したインタビューの音源を用いてレベル判定をする活動に力を入れています。

◆OPI 認定テスター資格取得のためのワークショップを開催

OPI 認定テスター資格取得のためのオンラインワークショップ(本研究会の会員が対象)が 7 月 23 日から 26 日の 4 日間の日程で開催されました。ワークショップは米 Flankrin＆Marshall　College の三浦謙一トレーナーと ZOOM でつないで行われました。アメリカ以外でオンライン開催されるのが初めてとのことでしたが、無事に終了することができました。このワークショップの参加者 10 名は 4 日間の厳しいスケジュールにも真摯に、そして楽しんで取り組まれていました。

ワークショップ後も、受講者は自身でインタビューの練習を積み重ねたり、定例会のデモでテスター役をしてくださったり(定例会の部分を参照)と、様々な活躍を始めていらっしゃいます。ワークショップは基本的に 2 年に 1 回の開催を計画しておりますが、詳細についてお知りになりたい方は、お問い合わせください。

定例会、スタディ、ワークショップ等の情報はホームページと Facebook でも発信しておりますのでご参照いただければ幸いです。またご不明な点があれば、いつでも研究会のメールアドレス宛にご連絡いただければと思います。



(スタディの様子)

韓国 OPI 研究会メールアドレス：kankokuopi@gmail.com
韓国 OPI 研究会ホームページ：http://opik.da-te.jp/
韓国 opi 研究会 | Facebook

📖 AIとクリエイティブ・ラーニング研究会 📖

(AI-CL： Association for AI and Creative Learning)

本研究会も参加し、後援した韓国日本語文学会第 58 回国際学術大会がオン・オフライン同時開催で行われました。（韓国研究財団後援）2022 年 3 月に本研究会と MOU を締結した交流団体の台湾・淡江大の曾秋桂先生の招請講演と検校裕朗会長(極東大)、運営委員の朴江訓先生(仁荷大)、尹楨勛先生(釜山外大)を始めとした先生方の企画発表もあり、それ以外にも多岐に渡る総合的な学術大会でした。

韓国日本語文学会　第 58 回 国際学術大会

日 時：2022 年 10 月 15 日(土) 09:40～16:40

場 所：全北大学校 (オン・オフライン同時開催)

主 催：韓国日本語文学会　主 管：全北大学校日本学科・日本東アジア研究所

後 援：韓国研究財団・　AI とクリエイティブ・ラーニング研究会

招請講演「主題：人工知能時代、人文学との共生をめざして」

第 I 発表場　司会：정연욱(목포대)

1. 김현곤(목포대)「한국과 일본 대학의 AI 교양 교육 현황」
2. 曾秋桂(淡江大)「AIとの協働によって切り拓く人文研究の新たな可能性―体系化を目指す村上春樹研究を例にして―」
3. 赤間亮(立命館大)「日本文化・文学におけるデジタル人文学（DH）の可能性ー立命館大学アート・リサーチセンター（ARC）リサーチ・スペースでの実践ー」
4. 李在鎬(早稲田大)「人工知能との共生を目指して：自動評価の事例に基づいて」

企画発表 [日本語学]　主題：人工知能時代　エデュテックを活用した日本語学教育

第 2 発表場　座長：박균철(전주대)　　司会：조은영(부산외대)

1. 박강훈(인하대)「K-MOOCにおける外国語教育モデルの開発と運用-「マルチリンガル習得と実践」講座のケーススタディ-」

   討論者：신의식(한국외대)

2. 박효경(한양사이버대)「사이버대학교 시스템을 활용한 e-PBL 실천 사례연구 -에듀테크와 학습자 참여 중심 교수법의 적용-」

   討論者：박정원(동국대)

3. 염미란(전남대)「대면 수업에서의 온라인 플랫폼 활용 양상-Padlet과 Google Docs 활용을 중심으로-」

   討論者：최진희(백석문화대)

4. 윤정훈（부산외대）「日本語教育における人工知能(AI)の利用と現状ーテキストマイニングによる分析を中心としてー」

   討論者：이선희(서울여대)

5. 検校裕朗(極東大)「AIとクリエイティブ・ラーニング研究会(AI-CL)の壮途とメタバース」

   討論者：이유희(대전대)

＊ 本研究会運営委員の趙泄羅先生(全州雨林中: 全北日本語教育研究会会長)が日本の大阪で行われた韓国日本語教育研究会(韓日研)の創立 20 周年記念「全国日本語授業研究発表大会」(2023.1.27)で授業研究発表をし、検校裕朗会長が、20 周年行事で祝辞を述べました。

AI とクリエイティブ・ラーニング研究会（AI-CL）ホームページ：
https://sites.google.com/view/ai-cl2021

※ 現在、入会費・年会費無料で入会を受け付けております。AI とクリエイティブ・ラーニング研究会の活動に関心のある方は、上記ホームページより是非ご入会ください。

編集委員会

【日本語學研究 第73輯（2022年 9月20日 発行）】

第1次 編集委員会（オンライン）

● 日時: 2022. 7. 12（火）

● 場所: オンライン/Zoom会議

● 議論内容:

(1) 73輯（9月20日発行）投稿論文審査委員選定

(2) 73輯 編集委員会の日程及び今後の計画（案）確認

(3) 日本語學研究 第74輯 論文投稿のご案内

（投稿締切日 2022年9月30日、発行日12月20日）

第2次 編集委員会（オンライン）

● 日時: 2022. 7. 28（木）

● 場所: オンライン/Zoom会議

● 議論内容:

(1) 73輯 審査現況確認

(2) 今後の日程

(3) 日本語學研究 第74輯 論文投稿のご案内

（投稿締切日 2022年 9月 30日, 発行日 12月 20日）

第3次 編集委員会（オンライン）

● 日時: 2022. 8. 3（水）

● 場所：オンライン/Zoom会議

● 議論内容:

(1) 73 輯に投稿された13編に対する審査結果及び掲載の検討

(2) 投稿論文に対する論文類似度検査結果確認

(3) 論文投稿要領及び審査項目の見直し

(4) 今後の日程確認

(5) 日本語學研究 第74輯 論文投稿のご案内

（投稿締切日 2022年9月30日, 発行日12月20日）

第4次 編集委員会

● 日時: 2022. 8. 25（木）

● 議論内容:

(1) 第73輯 投稿者修正内容確認及び出版社送付

(2) 英文要旨監修依頼

第5次 編集委員会

● 日時: 2022. 9. 8（木）

● 議論内容:

(1) 第73輯 1次 刊行作業経過確認

(2) 第73輯 1次 刊行作業及び校正作業

第6次 編集委員会

● 日時: 2022. 9. 16（金）

● 議論内容:

(1) 第73輯 最終校正作業

(2) KCI登載依頼

『日本語學研究』 第73輯発行（2022. 9. 20）

【 日本語學研究 第74輯 （2022年 12月 20日発行）】

第1次 編集委員会(オンライン)

● 日時: 2022. 10. 10(月)

● 場所: オンライン/Zoom会議

● 議論内容:

(1) 74輯（12月20日発行）投稿論文審査委員選定

(2) 74輯 編集委員会の日程及び今後の計画（案）確認

(3) 日本語學研究 第75輯 論文投稿のご案内

（投稿締切日 2022年12月30日、発刊日 2023年 3月20日）

第2次 編集委員会（オンライン）

● 日時: 2022. 11. 2（水）

● 場所: オンライン/Zoom会議

● 議論内容:

(1) 74輯 審査現況確認

(2) 今後の日程確認

(3) 日本語學研究 第74輯 論文投稿のご案内

（投稿締切日 2022年12月30日、発刊日 2023年 3月20日）

第3次 編集委員会（オンライン）

● 日時: 2022. 11. 3（木）

● 場所：オンライン/Zoom会議

● 議論内容:

(1) 74 輯に投稿された15編に対する審査結果及び掲載の検討

(2) 投稿論文に対する論文類似度検査結果確認

(3) 今後の日程確認

(4) 日本語學研究 第75輯 論文投稿のご案内

（投稿締切日 2022年12月30日、発刊日 2023年 3月20日）

第4次 編集委員会

● 日時: 2022. 11. 25（金）

● 議論内容:

(1) 第74輯 投稿者修正内容確認及び出版社送付

(2) 英文要旨監修依頼

第5次 編集委員会

● 日時: 2022. 12. 9（金）

● 議論内容:

(1) 第74輯 刊行作業経過確認

(2) 第74輯 刊行作業及び校正作業

第6次 編集委員会

● 日時: 2022. 12. 16（金）

● 議論内容:

(1) 第72輯 最終校正作業

(2) KCI登載依頼

『日本語學研究』 第72輯発行（2022. 6. 20）

『日本語學研究』 論文投稿案内

『日本語學研究』 投稿規定

▣ 投稿規定

第1条(学会誌発刊日程)

	論文投稿締切日	学会誌発刊日
第1回発刊	前年度12月31日	3月20日
第2回発刊	3月31日	6月20日
第3回発刊	6月30日	9月20日
第4回発刊	9月30日	12月20日

①学会誌は上記の日程で年4回発刊する。

②投稿論文は随時受け付け、締め切りは上記のようにする。

第2条(投稿資格)

①原則的に本学会の会員に限る。

②招請講演者、姉妹学会の会員、編集委員会の推薦による海外からの投稿者は例外とする。

③連携協力研究会において発表した論文は、本学会での発表と同一の資格を付与する。

第3条(投稿対象)

一般会員は本学会の学術発表会での口頭発表の有無と関係なく投稿することができる。

第4条(論文内容)

日本語学関連の論文として、既存の国内外の学術誌に発表していない独創的な研究論文でなければならず、本学会の研究倫理規定に従わなければならない。

第5条(掲載限度)

一つの学会誌に掲載することができる論文は一人一編に限る。また、同一人物の単独論文は2回以上連続して掲載しないことを原則とする。ただし、招請論文等の場合は例外とする。

第6条(分量)

学会で規定した論文作成要領に従い、図及び表を含めて16ページ程度とする。12ページ未満及び20ページ以上の超過は受け付けないことを原則とする。

第7条(投稿論文受付)

①投稿者は本学会の論文作成要領に従って論文を作成し、学会のオンライン投稿システム(http://jlak.jams.or.kr)から提出する。

②投稿者は学会のオンライン投稿システムに会員登録する際、必ず本人の身分事項を記載しなければならない。

③審査用の論文本文には投稿者と関連する事項を一切記載しない。また、編集委員会の幹事が記入の有無を確認する。

第8条(審査)

招請論文を含む全ての投稿論文は審査規定に則り、編集委員会の主管で3人以上の審査委員の審査を経て、掲載の可否を決定する。審査委員の選定は投稿論文の専攻研究分野を考慮し、編集委員会で決定する。但し、3人の審査委員には本学会の編集委員1人又は当分野の専門家が含まれることを原則とする。

第9条(審査料及び掲載料)

①審査料は1編あたり6万ウォン、掲載料は一般論文の場合は10万ウォン、研究費受託論文の場合は20万ウォンとする。ただし、無発表論文の掲載料は一般論文20万ウォン、研究費受託論文30万ウォンとする。ただし、招請論文は審査料および掲載料を免除する。

②学会発表論文として認められる期間は発表日から2年以内とする。

③最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、1ページごとに1万ウォンを追加で負担する。

④審査料は論文投稿締切日までに、掲載料は掲載用原稿の提出締切日までに英語要旨文校正費2万ウォンとともに入金しなければならない。

第10条(校正)

原稿の校正は投稿者が責任を持ち、論文の編集は編集委員会の方針に従う。

第11条(別刷本)

原稿料を別途で支払うことなく、学会誌に論文が掲載された投稿者には学会誌２部と別刷本20部を贈呈する。但し、海外発送の場合には別途30,000ウォンの配送料が発生する。

第12条(著作権)

受け付けた原稿は返還しない。また、投稿論文が学会誌に掲載された場合、該当する論文の著作権は、オンライン・オフラインともに本学会に帰属する。

第13条(その他)

本規定に明示されていないその他の事項は編集委員会の決定に従う。

<付則>

・この投稿規定は、2015年10月30日から改訂・施行される。

・この投稿規定は、2015年12月21日から改訂・施行される。

・この投稿規定は、2017年09月01日から改訂・施行される。

・この投稿規定は、2018年03月21日から改訂・施行される。

・この投稿規定は、2019年01月11日から改訂・施行される。

・この投稿規定は、2019年12月06日から改訂・施行される。

・この投稿規定は、2020年02月21日から改訂・施行される。

『日本語學研究』 投稿要領

▣ 投稿要領

1. 使用言語

論文は韓国語、日本語または英語で作成する。

2. 使用環境

原稿はアレアハングルを使用して作成することを原則とし、アレアハングルで入力できない漢字及び記号、図表などは他の紙面で提出する。但し、外国在住などの理由で、アレアハングルを使用できない場合はMSワードを使用して作成する。

3. フォント

韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。

4. 原稿分量

学会で規定した論文作成要領に従って、図及び表を含めて16ページ程度とするが、12ページ未満及び20ページを超過した場合は受け付けないことを原則とする。最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、追加掲載料を負担する。

5. 論文内容

次の順序に従い、フォント及び体裁は論文作成要領を参考にする。

① 論文題目

② 著者名:著者名には脚注に所属、職位、細部専攻を記入する。(論文作成例 参照) 2人以上の共同論文の場合、第1著者を先頭に書き、必要な場合、脚注で著者の所属及び細部専攻の後に“(第1著者、交信著者)”と明示する。

③要旨:要旨(題目含む)は最初のページと最後のページにそれぞれ作成する。論文の最初のページの要旨は300語程度の英語(必須)で作成し、論文の最後のページの要旨は600字程度の分量で英語を除いた論文の本文と異なる言語で作成する。(例：論文の言語が日本語の場合は韓国語、論文の言語が韓国語の場合は日本語にする)

④ 研究分野:二つの要旨に投稿論文の研究分野を例に示した分野の中から選択し、明示する。

(例 : 音声学(Phonetics)、音韻論(Phonology)、統辞論(Syntax)、形態論(Morphology)、意味論(Semantics)、語彙論(Lexicology)、語用論(Pragmatics)、社会言語学(Sociolinguistics)、日本語教育(Japanese Education)、日本語史(Japanese History)、その他の日本語学(Other Japanese Studies))

⑤キーワード:二つの要旨に論文の内容を含みうる５つ以内の主題語を要旨と同一の言語で提示する。

⑥ 本文

⑦ 注:本文の内容を補充する必要がある場合、脚注を作成する。

⑧ 用例出典:原則的に用例の出典を明らかにする。

⑨参考文献:著者名を基準にして韓国語、日本語、英語の順で作成し、書誌情報は著者名、年度、論文または著書名、論文の場合は掲載誌の巻号、発行機関、ページ数の順で漏れなく記載する。同一著者の文献が二つ以上ある場合、年次順に作成し、二つ目の文献からは著者名の代わりに下線を用いる。

例: 김정수(2003)「한일어 조사대조」『일본어학연구』6 한국일본어학회 pp.1-5

_____(2004)「일본어 대우표현의 특징」『일본어학연구』10 한국일본어학회 pp.1-5

高橋太郎(1969)「すがたともくろみ」『日本語動詞のアスペクト』麦書房 pp.1-5

Rakoff,L.(1973) Language and Women's Place. Language in Society, NY: Harper Colophone Books, pp.1-5

6. 図及び表

すべての図は下段中央に、表は上段中央に<図1>、<表1>のように表示し、必ず題目を記入する。

7. インターネット資料

インターネット資料を用例出典及び参考文献として利用した場合、URLの後ろに検索年月日を明示する。

(例: http://www.jlak.or.kr/ (検索日: 2014.3.20))

8. 外来語表記

ハングル正書法の外来語表記法に従う。

▣ 審査料及び、掲載料入金要領

[要旨発刊費]

■入金期限:学術発表の発表要旨の投稿締切日(または発表当日)

■金額: 10,000ウォン

[審査料]

■入金期限:論文投稿締切日

■金額: 60,000ウォン

[掲載料]

■入金期限:掲載用原稿の提出締切日

■英語要旨文校正費: 2万ウォン(投稿者負担)

■金額:

学会発表論文: 一般論文(10万ウォン), 研究費受託論文(20万ウォン)

無発表論文 : 一般論文(20万ウォン), 研究費受託論文(30万ウォン)

※但し、最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合は1ページあたり1万ウォンを追加で負担する。

[入金口座]

■口座番号 : 国民銀行 014301-00-002268 (殷守希<韓国日本語学会>)

※入金時に送金者の氏名及び送金内容を必ず記載すること(例: 山田太郎　審査料)

[審査及び掲載用論文提出先]

本学会オンライン投稿システム(http://jlak.jams.or.kr)から提出する。

▣ 論文作成要領

論文例示ファイル(ronbunrei.hwp)をダウンロードし、これに作成することを推奨する。

1. 編集用紙の形式は以下の通りである。

■種類：使用者定義, 幅170, 縦240

■余白：上 20, ヘッダー10, 下 10, フッタ-0, 左 15, 右 15

2.論文のフォントは韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。各部分別のフォントと体裁は次のとおりである。

■論文題目	ポイント 16, 太字, 中央寄せ, 行間隔 160
■副題目	ポイント 12, 中央寄せ, 行間隔 160
■著者名	ポイント 13, 右寄せ, 行間隔 160
■要旨	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160
■論文分野	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■キーワード	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■大見出し	ポイント 13, 太字, 左寄せ, 行間隔 160
■中見出し	ポイント 11, 左寄せ, 行間隔 160
■小見出し	ポイント 10, 左寄せ, 行間隔 160
■本文	ポイント 9.5, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 インデント 10pt
■引用文	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 左余白 30pt (例文など番号がある場合、段落　アウトデント　12pt追加)
■脚注	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 130, 段落 アウトデント 12pt
■参考文献	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 アウトデント 55pt

*** 論文作成例示を参考にすること。**

韓国語でお困りの海外外国人研究者のための

365 One Stop 論文投稿システム

◎「365 One Stop 論文投稿システム」とは、

韓国語でお困りの海外外国人研究者のみなさまが円滑に論文投稿できるよう、サポートするために考えられた論文投稿システムです。

これまで海外から当学会の学術誌『日本語學研究』に投稿するには、韓国の研究財団が指定する論文投稿システム（JAMS）を通さなければなりませんでした。しかし、JAMSは韓国語と英語にのみ対応しており、韓国語の分からない海外外国人研究者が韓国語や英語で会員登録などの複雑な手続きを進めていくのは困難な状況にあります。

当学会では、このような現状を踏まえて、担当者とのメールを通して円滑に論文投稿できるよう、「海外外国人研究者のための365ワンストップ論文投稿システム」を準備いたしました。

論文投稿をお考えの海外外国人研究者の方は以下のメールアドレスまでお問い合わせください。（韓国語にお困りでない研究者の方は「365 One Stop 論文投稿システム」をご使用いただけません。ご了承のほどお願いいたします。）

論文作成例や論文投稿に関する手続きなどのご案内をいたします。論文投稿時には英語及び韓国語での要旨が必要となりますが、日本語で要旨を作成していただければ、当学会で韓国語に翻訳いたします。

その他、ご不明な点やご質問などいつでも承ります。

海外外国人研究者のみなさまのご投稿をお待ちしております。

担当者：國生和美（編集委員）

メールアドレス：jlak365onestop@gmail.com

韓国日本語学会第 12 代編集委員会一同

学会ホームページのご案内

韓国日本語学会ホームページでは、以下のような多様なサービスをご提供しています。

1. 論文投稿
2. 論文審査
3. 『日本語學研究』論文検索およびダウンロード
4. 学術大会関連情報および要旨集ダウンロード
5. その他本学会関連情報

学会ホームページ URL

http://www.jlak.or.kr/

한국일본어학회

ニュースレターでは、会員の皆様の近況及び、お知らせを掲載しています。

記事の掲載をご希望の方は、メール (jlak123@hanmail.net) までご連絡ください。

■ 학회사무국	■ 学会事務局
〒(01369) 서울특별시 도봉구 삼양로 144 길 33 덕성여자대학교 인문사회관 424 호 노주현 교수 연구실 (연구편집 사무국장 : 이소라) 010-8901-2603 (학술사업기획 사무국장 : 호규진) 010-3464-1660 (교육홍보 사무국장 : 이토 타카오) 010-2656-2098	〒01369 Seoul 特別市 道峰區 三陽路 144gil 33 德成女子大學校 人文社会館 424 号 盧姓鉉教授研究室 (研究編集事務局長：李炤羅) 010-8901-2603 (学術事業企劃事務局長：扈圭珍) 010-3464-1660 (教育広報事務局長：伊藤貴雄) 010-2656-2098
E-mail : jlak123@hanmail.net	Homepage : http://www.jlak.or.kr